

緑化だより

No.175 令和 3年 9月号



ヒヨドリバナ

- 季節の花(をみなへし(女郎花))
- 昆虫の話(9月のガ)
- 小さな世界こけ
(コケが観察できる場所(14))
- 研修会のご案内
- お知らせ・ご案内
- 展示会



広島県立大学の木々

広島県緑化センター・広島県立広島緑化植物公園

〒732-0036 広島市東区福田町 10166-2

TEL 082-899-2811 FAX 082-899-2843

URL <https://ryokka-c.jp>

季節の花

をみなへし(女郎花)

「秋の田の 穂向(ほむ)き 見がてり わが背子(せこ)が

ふさ手折(たお)り来(け)る をみなへしかも」

大伴家持(おおとものやかもち) 万葉集:巻17-3943

これを訳しますと

(秋の田の稲の穂の実った様子を見まわりながら、あなたがこちらに来る途中、こんなにたくさん折って来てくださった女郎花(おみなえし)なのですね)

天平18(746)年、大伴家持が越中(富山県高岡市)の守に任じられた時に詠まれました。

先に赴任していた一族の一人、大伴池主(おおとものいけぬし)が、大伴家持の邸宅で行われた宴に招かれました。オミナエシの花は家持の大好きな花と知り、途中で花を摘んで、手土産として持ってきた大伴池主のころづかみに感謝して詠った歌です。

オミナエシはスイカズラ科(旧オミナエシ科)オミナエシ属 日本、中国、シベリアに自生している多年草で、日当たりの良い山地や草原に自生しています。

花期は8~10月で、多数の黄色い清楚な花が咲きます。秋の七草の一つで、古くから親しまれています。

和名は、よく似てたくましい白花の「男郎花(オトコエシ)」に対して、全体にやさしく女性的な黄花を「女郎花(オミナエシ)」といいます。

別名は女飯(おみなめし)で小粒の黄花の様子から栗飯(あわめし)ともいい、オミナメシからオミナエシの名がついたとも言われています。花を室内に飾っておくと、やがて醤油のくさったような匂いがしてくることがあります。

これらは漢方薬の敗醬根(はいしょうこん)の由来で、利尿剤や解熱などに利用されます。若芽や葉はゆでて食用になります。(上村)



オミナエシ

昆虫の話

9月のガ

「暑さ寒さも彼岸まで」とはよく言ったものです。残暑は続きますが、セミの音が次第にコオロギに変わり、少しずつ秋の気配を感じる季節になりました。

さて、9月のガとしてシンジュキノカワガを紹介します。大型美麗、しかも珍品。ガの収集をはじめた頃、早く実物にお目にかかりたいと憧れた種のひとつです。

実は本種のももとの生息地は中国南部と台湾で、梅雨前線が北上する6月末頃から日本に飛来します。また、飛来後にしばしばシンジュ(こちらも中国原産。別名ニワウルシ)に産卵し、9~11月にかけて2~3世代目が発生します。

しかし、日本では冬を越せず、翌年同じ場所で本種が発生することは非常に少ないと言われています。広島県における本種の確認記録は、1921年から1997年までの77年間でわずか4例しかありませんでしたが、1998年に県内4か所で成虫と幼虫が確認され、筆者もその年の9月に広島市東区内の自宅駐車場で新鮮な成虫(写真)を採集しました。その翌年以降も、毎年、県内のどこかで点々と確認されるようになりました。気候変動など何らかの因子が、1998年以降の本種の長距離移動に



シンジュキノカワガ

影響を及ぼしていると推察されます。

幼虫は黄色と黒の縞模様の派手な毛虫で、繭の中で蛹化します。筆者は幼虫を飼育した経験がありますが、繭に刺激を与えると蛹が発音し、その音が他の蛹にも次々と拡散して、繭の大合唱が数秒から10秒くらい続くことに驚きました。筆者が直近で本種を見かけたのは安芸高田市内で、昨年9月のことです。山林調査に行った際、昼に弁当を食べていると、麓の緑化樹の畑の上空を優雅に旋回する、見たことのないチョウ2頭が目に入りました。暫くしてそのうちの1頭が舞い降りたので確認したところ、チョウではなくシンジュキノカワガで、止まっていたのはシンジュの葉上でした。はじめて昼間に目撃しましたが、気流をとらえた滑空で、この飛び方なら海を渡ることも無理はないと納得しました。一方、体をつつくと仮死状態になり葉から転げ落ちました。飛び方とのギャップが大きく本種の不思議さがさらに増した瞬間でした。(相良)

小さな世界 こけ

コケが観察できる場所(14)

遊歩道から林内に足を踏み入れると、土の斜面や腐りかけた古い切株に白っぽい緑色の群落を作っているコケがあります。セン類のシラガゴケの仲間です。シラガゴケ属の葉は、細胞質がなく、細胞壁だけの空虚な大型の細胞が2列に並び、その間に細胞質があり、葉緑体を持った小さい細胞が挟まれた構造になっています。この空虚な大型の細胞が光線を乱反射して白っぽく見えるのです。この大型の細胞には雨水などを貯水する働きがあります。

その中の一つホソバオキナゴケは、湿り気のある岩の上、半日蔭の土や木の幹にドームのような群落を作ります。

日本庭園や茶庭にもよく使用されるコケの一つです。株と株の間は密で固いため、はがすとポロッと塊でとれます。白みがかった緑色をしています。乾燥すると白色が目立つため、名前の由来になっています。

高さ3 cm以下、葉は密についているため、茎は目立ちません。葉の長さは3~4 mm、基部は広い卵型ですが葉先は細い披針形で、両側の縁は内側に巻き込んでいるため肉厚に見えます。

胞子体は、柄の長さ6~10 mmで、3月頃から、艶のあるチョコレート色で、ツルの首のようにとがった胞子のうをつけます。

仲間のオオシラガゴケはその名の通り大型で、茎の長さは5 cm位、葉の長さは7~10 mmほどあり、離れたところからでも見つけることができます。生育している場所は、林内の日陰で湿った岩や腐植土の上に、這うように群落を作ります。

ホソバオキナゴケによく似たコケにアラハシラガゴケがあります。葉にやや光沢があり、細長く曲がっているのが特徴ですが、判別は大変難しいです。杉の根元などに、やや粗い群落を作っています。(山根)



ホソバオキナゴケ



ホソバオキナゴケの胞子体



オオシラガゴケ



左:オオシラガゴケ
中:アラハシラガゴケ
右:ホソバオキナゴケ

研修会のご案内

- | | | |
|--|-----------|--|
| ○ 9月3日(金) 『薬草健康講座』
健康や薬草についての講義です
※自由参加、無料 | 中止 | 10:00～12:00 学習室 集合
講師：広島国際大学生涯学習自然園
前園長・薬学博士
神田 博史 |
| ○ 9月9日(木) 『秋の七草と自然探勝』
秋の七草について学び、植物を観察します
※自由参加、無料 | | 10:00～12:00 学習展示館前 集合
講師：広島県文化財保護審議会委員
(植物生態学) 吉野 由紀夫 |
| ○ 9月17日(金) 『9月の自然探勝』
散策路を歩きながら植物を観察します
※自由参加、無料 | | 10:00～12:00 学習展示館前 集合

講師：NHK 広島文化センター
アシスタント 上村 恭子 |
| ○ 9月19日(日) 『コケ玉作り』
コケ玉作りに挑戦しよう
※要予約先着30組、材料費1,200円 | | 10:00～12:00 学習室 集合
講師：森林インストラクター
長井 稔 |
| ○ 9月26日(日) 『秋のきのこ入門観察会』
講師と一緒に散策路を歩き、きのこの解説を聞きます
※要予約(先着15名)、無料、雨天中止 | | 10:00～12:00 学習展示館前 集合
講師：きのこアドバイザー
川上 嘉章 |

新型コロナウイルス感染症の感染拡大を抑制するため、参加者はマスク着用、手・指の除菌、密集・密接を避けるようご注意ください。また状況によっては、研修内容の変更や中止となる可能性があります。ホームページ、お電話等で最新の情報をご確認ください。

☆お知らせ・ご案内☆♪

新型コロナウイルス蔓延防止等重点措置のため、
下記のとおり、屋内の施設利用、及び研修会を中止とします。

【期間】 ～9月12日(日)(予定)

【利用中止施設】

- ① 緑の相談所：こどもひろば・室内遊具・卓球
- ② 学習展示館：展示室・学習室

◎ 展示会

場所:レストハウス

(パネル展示)

鬼滅の絵筆展

～コロナにも夏の暑さにも負けず **中止** ～9月10日(金)

日本画作品展 (予定)9月20日(月・祝)～10月23日(土)

福田公民館「はずき会」による作品展示

(ガラスケース展示)

つづらふじ手作りかご作品展 開始日未定～10月23日(土)

